本科講座 33　決算整理事項（現金過不足・消耗品）

ねらい　決算日での現金過不足について学習する。

【現金過不足】

現金過不足の仕訳は「本科講座９」で学習しました。現金過不足での仕訳は、とりあえず、現金過不足勘定を使用して、帳簿上の金額と、実際の金額を合わせることが、重要であり、現金過不足の原因を調べていくうちに、原因が判明すれば、その時点で正しい科目へ修正する決まりでした。しかし、期末がきても、原因が判明しない場合はどのようにすればよいのでしょうか？原因が判明するまで、そのまま、置いとくのでしょうか？決算時では、期中にどの程度利益があがったのかを知る目的がありますので、たとえ原因不明な現金過不足があった場合でも、その分を含めて処理しなければなりません。決算がきても、原因が判明しなかった現金過不足は、雑益勘定もしくは雑損勘定で処理します。

例１　決算において現金の不足が 1,000 円発生し、原因を調べたがわからなかった。

（借方）　雑損　1,000　　（貸方）　現金　1,000

決算時ですので、記入は修正記入欄へ記入します。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	5000			1000			4000	
雑損			1000		1000			

また、決算時において、現金過不足が発生した場合でも調べると原因が判明する場合があります。この場合は、「本科講座９」で学習した、現金過不足勘定は使用せずに、直接処理します。

例２　決算において現金 1,000 円の余剰が発生し、原因は、売掛金の入金処理漏れであることが判明した。

（借方）　現金　1,000　　（貸方）　売掛金　1,000

決算時ですので、記入は修正記入欄へ記入します。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	5000		1000				6000	
売掛金	2000			1000			1000	

【消耗品】

消耗品も決算整理仕訳が必要です。消耗品とは、鉛筆やノート、コピー用紙など、すぐに使ってなくなってしまうものをいいます。消耗品は通常使用するとなくなってしまう（使えなくなってしまう）ので費用の項目になります。しかし、決算時に未使用の消耗品の扱いはどのようになるのでしょうか？例えば期中に消耗品を 50,000 円分購入したとしましょう。期末に見てみると 10,000 円分残っていました。この場合は、使用した 40,000 円分は当期の使用分として扱いますが、未使用分の 10,000 円は良く翌期に繰り越さなければいけません。使用していない消耗品 10,000 円分は翌期に使用できますので資産と考えます。

消耗品の決算整理仕訳の方法は、①購入時に費用として計上する方法と②購入時に資産として計上する方法の２つの方法があります。

① 購入時に費用として計上する方法

購入時に消耗品費（費用勘定）として計上し、期末に未使用分を資産として繰り延べる方法

例１　期中に消耗品 10,000 円を現金で購入し、このうち期末に 3,000 円の未使用分があった。この場合消耗品を消耗品費（費用勘定）で決算整理しなさい。

購入時の仕訳が（借方）　消耗品費　10,000　　（貸方）　現金　10,000

決算整理仕訳が（借方）　消耗品　3,000　　（貸方）　消耗品費　3,000

決算時ですので、決算整理仕訳分の記入は修正記入欄へ記入します。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
消耗品費	10000			3000	7000			
消耗品			3000				3000	

② 購入時に資産として計上する方法

購入時には消耗品（資産勘定）として計上し、期末に使用分を消耗品費勘定へ振り返る方法

例２　期中に消耗品 10,000 円を現金で購入し、このうち期末に 3,000 円の未使用分があった。この場合消耗品を消耗品（資産勘定）で決算整理しなさい。

購入時の仕訳が（借方）　消耗品　10,000　　（貸方）　現金　10,000

決算整理仕訳が（借方）　消耗品費　7,000　　（貸方）　消耗品　7,000

決算時ですので、決算整理仕訳分の記入は修正記入欄へ記入します。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
消耗品費			7000		7000			
消耗品	10000			7000			3000	